

「第6次茅野市総合計画基本構想(案)」に係るパブリックコメントにお寄せいただいたご意見と市の考え方等について

「第6次茅野市総合計画基本構想(案)」に係るパブリックコメントを実施したところ、下記のとおり貴重なご意見をいただきました。いただいたご意見を要約、集約し、それに対する市の考え方等をまとめましたので公表します。  
なお、「第6次茅野市総合計画基本構想(案)」に直接関係ないと考えられるご意見(1件)については、公表していません。

1 意見の募集期間	2 意見の提出者数と件数		3 意見の提出方法別人数				
	提出者数	件数	メール	郵送	FAX	持参	計
令和6年3月29日(金)～ 4月30日(火)	11名	43件	10名			1名	11名

いただいたご意見とそれに対する市の考え方等

No	ページ	該当する箇所等	いただいたご意見の概要	市の考え方等
1	2	与件の整理 「1 現状把握と課題解決の考え方」	「機会、強み、弱み、脅威」の4つの言葉で、説明されているが、「脅威」の言葉に違和感を感じた。人々を驚かすような表現よりも、「懸念」くらいの方が良いのではないか。	いただいたご意見を踏まえて、表現を検討します。
2	3	与件の整理 「2 茅野市が守り、育んできた大切なもの」	冒頭にある文章(今から約5000年前の縄文時代中期、茅野市は日本の縄文文化の中心地でした。当時、八ヶ岳西南麓一帯では、多くの人々が、助け合い、支え合いながら、豊かで活力に満ちた生活を営んでいました。)を全面的に支持する。デジタル化、リモートワークが進む現代社会における共助、共同精神は最重要課題である。私はこの実践には「コミュニティーの形成」と、そこにおける人間同士の「触れ合い」が必至であると考えている。	縄文文化からの学びを基本とし、これからのまちづくりを進めていきます。
3	3、10、26	与件の整理 「2 茅野市が守り、育んできた大切なもの」 基本構想 「1 これからのまちづくりの考え方②」、「5 まちづくりの基本となる価値観③」	「縄文文化で、育まれた助け合い、支え合い、豊かで活力に満ちた生活」「縄文文化からの学び」などの文言があるが、行政のまちづくりの基本構想には、ふさわしいとは感じられなかった。 学校教育の中で、縄文人のそうした精神性を学ぶ機会があることは、地元を学ぶことに繋がり、そこから学ぶことがあるとは思いますが、大人の現実の市民生活に、縄文人の知恵が生かされていると感じたことは、私自身はない。	いただいたご意見を踏まえて、内容を検討します。
4	3	与件の整理 「2 茅野市が守り、育んできた大切なもの」	昨年パブリックコメントを実施した「第6次茅野市総合計画 基本構想(素案)」には、「世界に誇る縄文遺産が身近にあるまち」という項目があり、茅野市が唯一世界に誇れると考えられる縄文文化についての記載があった。これ以上の強みはないと思うので項目を削除せずに、「世界に誇る縄文文化が身近にあるまち」として、しっかりとした内容を記載してほしい。これを削除してしまっただろうと感じる。	縄文文化からの学びは、茅野市がこれまでのまちづくりにおいて、守り、育んできた強みの基本になるものとして位置付け、3ページの導入部分に文章として入れ込んでいます。

No	ページ	該当する箇所等	いただいたご意見の概要	市の考え方等
5	3	与件の整理 「2 茅野市が守り、育ててきた大切なもの」	<p>「若者に選ばれるまち」実現を目指す人口減少対策で書いてある3つの項目のうち、上の2つの項目の内容が、なぜ人口減少対策になるのか、若者に選ばれると思うのかよくわからない。</p> <p>DXをやれば、のらぎあがあれば、若者に選ばれるのか。方針・計画として、推し進めたい横文字が先行してしまって、市民の実となる目的設定が雑に感じた。目的や市民の利益がまずあって、それを解決する手段として本当にDXなどが最良の手段と思うなら、それがわかる計画にしてほしい。</p>	<p>「デジタル田園健康特区」やDXの推進、「のらぎあ」の運行などについては、これまで解決が難しかった課題を解決に導き、未来志向で、便利で暮らしやすいまちを実現するために実施しています。こうした取組は、AIやデジタルツールなどの最先端の技術を活用したものであることから、新たなビジネスや付加価値の高い産業の創出などを目指す若者が、先進的な取組を推進する茅野市に魅力を感じ、茅野市をフィールドに業を興す可能性を見据えたものであり、「若者に選ばれる」まちにつながるものと捉えています。</p>
6			<p>人口減少対策について、「若者に選ばれるまち」の構築により人の交流を図り、人口減少に歯止めをかけるとあるが、「外国人」を加えることが重要であると考えている。茅野市の次期計画に「外国人」を加えることにより、今後5年間の様々な施策に外国人労働者だけでなく、外国人定住者、観光客誘致につながると考える。また、今後、DXの進展をもってしても総労働人口は恒常的不足に陥ると考える。これはとりもなおさず、健康な高齢者に生涯現役で労働市場参画を促す、経営者は高齢者の積極雇用を「年齢にかかわらず」行うということであると考えている。</p>	<p>総合計画基本構想においては、交流を通じて、より多様な人の力をまちの力に取り込んでいくといった考え方を記載しており、その中に外国籍住民や高齢者も含まれています。</p>
7	6	与件の整理 「6 茅野市を取り巻く環境の変化と茅野市への影響③」	<p>まちづくりを目指す上で唯一無二である八ヶ岳の自然は食と農に欠かせないものであると考えるが、第6次総合計画のどこに記載があるのか。</p>	<p>八ヶ岳の豊かな自然環境が茅野市の強みであることは、3ページに記載があります。</p>
8	6、8、23、24	与件の整理 「6 茅野市を取り巻く環境の変化と茅野市への影響③」、「これからのまちづくりに必要なこと②」 基本構想 「5 まちづくりの基本となる手段②」、「5 まちづくりの基本となる価値観①」	<p>広報ちのなどにも繰り返し出てくる「DXの重要性」や「恩恵」については、具体的な良さを実感しないまま、市民生活を送っており、どこにその必要性があるのかがわからないままである。</p> <p>また、「GX」もそうであるが、国の施策が必ずしも正しいとは限らない。不安定な世界情勢の中では、市独自の視点や判断力も必要であると感じた。</p>	<p>DX、GXともに、総合計画で提起した茅野市の課題の解決に資する手段、価値観として、これからのまちづくりに必要なものであると認識しています。</p>

No	ページ	該当する箇所等	いただいたご意見の概要	市の考え方等
9	7	与件の整理 「4 これからのまちづくりに必要なこと①」	<p>「地域に多くの人の手があることを前提としたまちづくりの仕組みであった」とあるが本当なのか。現在、公に資する市民団体や活動はさらに増え、充実している。その一方で行政区では人口は増えているが、自治会活動の低迷が起きているように感じる。そこを「担い手不足」と言っているのではないか。</p> <p>公民協働のまちづくりは、行政と市民の双方がもっと協働して自分たちのまちづくりに関わっていく自治の仕組みへの転換であり、多くの市民が関わっていくようにしていくことこそ、これからの課題だと思う。</p> <p>現在の担い手不足は、人口減少が要因ではなく、人々の自治意識の醸成不足、自治知識の不足と考える。このような状況で、より少ない人数でまちづくりを行う仕組みに転換することは、まちづくりに関わる人を少なくすることであり、これまで積み上げてきた茅野市の公民協働のまちづくりを否定することになると感じる。これまでの積み上げの否定を意図していないなら、「少ない人数でまちづくりを行う仕組みにする」という説明は、もっと慎重に行ってほしい。結局、この計画で言う公民協働のまちづくりの転換の真意が上手く伝わらない。住民自治力を上げる課題があまり読み取れないことが懸念点である。むしろ表題を付けるなら「デジタル技術、交流を生かした公民協働のまちづくりの深化」あるいは「加速」の方が適切ではないだろうか。「転換」は行くべき方向を変えることであり、かなり重大な意味をもつ言葉であると思う。</p>	<p>約20年前(2005年)と比較し、茅野市の人口は約2,000人減少し、主にまちづくりの中核を担う生産年齢人口の割合も64.8%から56.4%に減少しています。一方で、例年実施しているまちづくり懇談会においては、多くの地区で区・自治会の役員や消防団員などの地域の担い手が不足し、地域コミュニティの維持が困難になっている現状をお聞きしています。こうしたことから、これまでのまちづくりは多くの人の手に支えられてきたものと仮定しています。</p> <p>課題解決の基本となる手段に位置付けているDX・アナログの再構築においては、これまでまちづくりに参画することができなかった人の力をまちの力に取り込むためにデジタルツールを活用することとしています。</p> <p>市民の自治意識、自治知識などについては、行政から一方的に市民に投げかけるものではなく、市民と一緒に現状を把握し、そこに問題があるのか、あるとすればどのような問題なのかといった段階から議論する必要があると考えます。</p> <p>新しい時代に対応した公民協働のまちづくりは、これまでの茅野市の「強み」に手を入れることにほかならないため、重大な意味を持つとの認識から、「転換」といった言葉を使っています。</p>
10	9	基本構想 「1 これからのまちづくりの考え方①」	<p>「取組の推進にあたっては、新しい手段や価値観を積極的に取り入れます。」の部分に、市民の声、子どもや若者の意見を取り入れるというような言葉を入れてみてはどうか。</p>	<p>このページは、これからのまちづくりのイメージ図に記載のある要素を説明する内容としています。</p> <p>様々な取組の推進にあたっては、当然、子どもや若者を含めた市民の意見を取り入れていきます。</p>
11	10、26	基本構想 「1 これからのまちづくりの考え方②」、「5 まちづくりの基本となる価値観③」	<p>昨年実施したパブリックコメントの回答から、今後、茅野市として、まちづくりや直面する課題解決にも、縄文文化からの学びを生かしていく、つまり、市民と対話して縄文文化をまちづくりなどに生かす活動を行っていくと解釈していたが、その後、全くその行動がなされていない。</p>	<p>縄文文化をまちづくりに活かす手法については、現在庁内で検討を進めています。</p>

No	ページ	該当する箇所等	いただいたご意見の概要	市の考え方等
12	14	基本構想 「3 目指すまちの将来像①【目標1】」	主語が市なのか市民なのかがわかりづらい。実現したい市の状況と、そのために市民に対して求めることを分けて書いた方が、わかりやすいと感じた。	いただいたご意見を踏まえて、表現を検討します。
13	15	基本構想 「3 目指すまちの将来像②【目標1】」	この、“まち”とは、茅野市全体なのか、中心市街地(駅周辺)なのか、各所に記載の“まち”と同じ意味を示しているのか。違いがあるのであれば、“街”にしてはどうか。	総合計画基本構想における“まち”は茅野市全体を指します。
14	15、17	基本構想 「3 目指すまちの将来像②、④【目標1】」	別荘地域と市住民との交流を図る施策としては、公共交通手段の整備(例えばのらぎあの延伸)、ライドシェア導入、交流場の設置(公共施設の積極活用など)、DXによる促進(交流Webサイト設定)などが考えられる。これらの施策の導入により、茅野市への都市部からの移住が期待される。	具体的な取組を定める基本計画の内容を検討する中で、参考にさせていただきます。
15	15～19	基本構想 「3 目指すまちの将来像①～④【目標1】」	15ページに目標1の交流の説明が、20ページに目標2の説明がされているが、交流に関しても1ページにまとめて示すことはできないのか。	交流については、基本構想の重要なキーワードの一つになりますので、丁寧に説明したいと考えています。
16	23	基本構想 「5 まちづくりの基本となる手段②」	DXはあくまでも生産、流通、などの「不完全性(deficiency)」を補うツールとして捉えるべきであり、精密、農林業、観光、別荘地の活動などに経済を頼る茅野市は、そのような根幹生産活動の生産性の向上を目指すことが重要であると考えます。	具体的な取組を定める基本計画の内容を検討する中で、参考にさせていただきます。
17	24	基本構想 「5 まちづくりの基本となる価値観①」	新たなGXの一環としての森林再活用は、手始めに間伐を行い、伐採木を薪、建材、ウッドチップなどへの有効利用を介して可能であると考えます。市内にある森林整備、学習NGOsなどが中心となり、市内外の人々、別荘地住民などをボランティア、体験宿泊者として参加してもらうことにより、作業コスト削減も可能であると考えます。	具体的な取組を定める基本計画の内容を検討する中で、参考にさせていただきます。
18			ゼロカーボンを目指すのであれば、まちを挙げて自然栽培や有機栽培を推進するべきであると思う。慣行栽培では農薬散布や除草剤などにより、地中の微生物が殺され、大量のCO2が排出される。耕作放棄地を市が介入して、有機や自然栽培など持続可能で脱炭素に貢献する農法をしたいと希望する人に、無料又は安価で貸すなどすることが必要ではないだろうか。オーガニックのまちとしてアピールすることで、観光客や農業をやりたい若者の転入も増えると思う。茅野市内の各地で見られる太陽光発電も、森林伐採をする場合は、自然災害の要因になったり、生態系を壊したりする。	具体的な取組を定める基本計画の内容を検討する中で、参考にさせていただきます。

No	ページ	該当する箇所等	いただいたご意見の概要	市の考え方等
19	24	基本構想 「5 まちづくりの 基本となる価値観 ①」	GX(ゼロカーボン)となっているが、カーボンニュートラルの考え方が必要になってくると 思う。言葉を増やすことはあまりよくないと思うが、エネルギー政策を強く打ち出すことが 必要である。 2050年のゼロカーボン達成に向けた取組は、かなり強い力で先導していくことが重要で ある。自然環境の保全、エネルギーの地産地消だけでなく、市民が公共交通を使う、各自 での再エネルギーの活用、地域でのエネルギー対策など、もっと目線を広げ、庁内でも各 部署でできることに取り組んでいかななくては、2050年にも間に合わないと思う。ただの節 約ではなく、あらゆる手段を使い、市民と共にエネルギー政策を進めていくという強い気 概があってもいい。	具体的な取組を定める基本計画の内容を 検討する中で、参考にさせていただきます。
20	24	基本構想 「5 まちづくりの 基本となる価値観 ①」	ゼロカーボンについても触れているが、繰り返し登場する「八ヶ岳の麓、自然豊かな環境」 の維持や、「温室効果ガスの吸収」のための農地の維持、エネルギーの地産地消と経済の 好循環など、茅野市の具体的な施策に、今後注目したいと思う。	具体的な取組については、今後、基本計画 の中に定めていきます。
21	25	基本構想 「5 まちづくりの 基本となる価値観 ②」	「多様性の尊重」に関連する計画等に、茅野市こども・家庭応援計画は含まれないのか。	当該箇所には、すべての政策、施策などに 共通する基本的な価値観として、「多様性の 尊重」に関連した計画を列記しています。
22	25	基本構想 「5 まちづくりの 基本となる価値観 ②」	多様性について、「多様な人々を受け入れる地域性」とあるが、ここに、茅野の福祉施設の 人々や、現在茅野の工場や農園で働く多くの外国人労働者は含まれているのか。こうした 人たちとの交流から学ぶこと、そして、そこから得たヒントを基に、豊かな市民社会を形成 していくことも、今後の人口減少が避けられない情勢においては、大切であると思う。	総合計画基本構想においては、交流を通じ て、多様な人の力をまちの力に取り込んで いくといった考え方を記載しており、その中 には外国籍住民も含まれています。
23	26	基本構想 「5 まちづくりの 基本となる価値観 ③」	「第6次茅野市総合計画 基本構想(素案)」には、「こうした(縄文文化を身近に感じ、縄 文人の生き方や暮らしに触れ、そこから多くの学びを得ることができる)環境は、市内外の 多くの人を惹きつける茅野市の魅力の一つであり、人を呼び込む大きな力になると同時 に、市民の地域への愛着や誇りの醸成にも寄与しています。」という一文が含まれていた が、削除されている。この文章は、茅野市で縄文文化の存在を考える上で、大変重要であ る。人々の関心を引き込むと同時に、自分たちのアイデンティティともなっていることを示 している。この一文は削除すべきではない。是非とも戻してほしい。	ご指摘いただいた内容は、茅野市が抱える 課題であり、「縄文文化からの学び」から見 出される「価値」が、その課題を解決に導く ものであるといった考え方を記載していま す。
24	28	基本構想 「7 まちづくりの3 つの成果指標と目 標」	「幸せを実現できるまち」と大きく掲げているのに、5年後の目標が57.2%(令和4年度市 民意識調査で、「幸せ」と答えた人の割合)を超えること、というのはなかなか残念に感じ た。もっとしっかりと高い目標を立てた方が何をしたいか、何をしていくべきか明確にな り、幸せが実現しやすいと思う。	国から示されている地域幸福度指標につい ては、これまでにない新しい概念であり、総 合計画の成果指標として設定している自治 体も現時点ではほとんどないものと認識し ています。市が捕捉しているデータも、令和 4年度と令和5年度の2回の調査結果のみ であり、数字の推移などから目標値を設定 することが難しかったため、まず、初年度の 調査結果で得られた割合を上回ることを目 標とした経過があります。今後は、状況に応 じて目標値の定め方を検討していきたいと 考えています。

No	ページ	該当する箇所等	いただいたご意見の概要	市の考え方等
25	28、29 ～33、 50、51	基本構想 「7 まちづくりの3 つの成果指標と目 標」 基本計画 「3つのまちの姿に 関連した施策例」 資料編 「(全国)地方移住 への関心」「(全国) 地方移住への関心 理由」	28ページの3つの成果指標は、達成できると良いと思う。 人口減少や生産人口の減少が統計上でも示されている中で、移住者をどう受け入れるのか、どこが強みで茅野市に移住してもらえているのか、50～51ページで示されている内閣府のデータなどだけでなく、実際に「茅野市で起きている移住の現実」をもっと深く分析し、施策に生かしてほしいと感じた。 子どもを連れての家族での移住は、14歳以下の年少人口を増やす大きなチャンスであり、32ページで示されている「限りある人材が生涯にわたって、活躍できるまちづくり」に大いに関わってくる。国全体での人口減少、少子化が避けられない今、都会からの移住の流れの理由の現実を把握し、自覚しながら、どのように茅野市の社会に組み込んでいくかを真剣に考えていくことが、茅野市の財政向上や3つの成果指標の達成につながると確信している。	内閣府のデータについては、全国的に都市部から地方への人の流れが生まれていることや、地方への関心が高まっていることを示すための資料として提示しました。 移住促進について、基本計画で具体的な施策の方針等を定めるに当たっては、茅野市へ移住された方の声なども参考にしていきます。
26	29～33	基本計画 「3つのまちの姿に 関連した施策例」	農業環境について、八ヶ岳の裾野から平坦部まで豊かな農地を有し、農業が重要な産業であることが茅野市の特徴である。一方で、高齢化に伴い耕作放棄地の拡大も進む傾向にある。若い世代の農業離れは深刻であり、若い世代が農業を生業にすることに限らず、米・野菜作りを生活に取り入れるという方向に向かえないだろうか。 今後緊急時に備えて、各家で自家栽培の作物を作る方向に行政が関わる必要があると思う。移住の方の趣味や休日農業を、一般的にすることは重要であると思う。各戸が栽培できるという可能性を秘めているのが、茅野市である。移住後、退職後、仕事の合間(半農半X)など、可能性を引き出せる余地もあると思う。 大規模でなくとも家庭菜園、小さな農業を広めることは、将来を見据える上で重要であると思う。各家庭の栽培であれば、安心・安全な作物を期待できる。各地区で野菜作りの高齢者が減っている現状を、市として応援すべき時期ではないだろうか。高齢者の「生きがいづくり」、子どもたちの食育にもつながる。 家庭農園を市が仲立ちする仕組みづくりが必要である。また、指導者育成、地域農業への支援も、今後の茅野市の農業拡大の可能性を伸ばすことにつながると思う。農業は茅野市の大きな柱である。	具体的な取組を定める基本計画の内容を検討する中で、参考にさせていただきます。
27			森林や農地も景観であり、景観も茅野市の大きな財産である。観光シーズンだけでなく、四季折々の景色が見られる。八ヶ岳や霧ヶ峰、西山方面、入笠から見下ろす、3市町村は農地が広がり、森林に囲まれ、訪れた観光客や移住を求める人の憧れの景観となっている。環境に負担を掛けない開発や管理で、景観を守ることが必要になる。	具体的な取組を定める基本計画の内容を検討する中で、参考にさせていただきます。

No	ページ	該当する箇所等	いただいたご意見の概要	市の考え方等
28	29～33	基本計画 「3つのまちの姿に 関連した施策例」	<p>林業の進んだ国(ドイツの話)では、林業従事者が消防士、警官のような憧れの職業だと聞く。管理された林道を、観光開発ではなく、遊歩道として、サイクリング道路として、散歩道として、人々の生活に密着しているとのことである。そのような林道が、八ヶ岳の裾野に広がる可能性はないのだろうか。所有者(個人・財産区など)との連携で山全体を健全にし、活用し、後世に残せないだろうか。</p>	<p>具体的な取組を定める基本計画の内容を検討する中で、参考にさせていただきます。</p>
29			<p>全体を通して、これだけの農地面積を抱える市として、農業を持続・再生するための計画がほぼないのが、とても不安である。 今ある市の資源を活かしていくつもりがあるのなら、これから食料自給がより必要になっていくことが予想される中、農地を守り若者に後継していくための方針と施策を是非追加していただきたい。 農地を工場などの誘致で埋めるのは、目先の金を目当てにするなら簡単なことであるが、その後もう一度食べ物を生み出せる農地に戻すのは全く容易ではない。茅野市のご先祖さまが代々受け継いで来られた農地を、子供や孫の世代まで食べるに困らないように残していったあげたい気持ちが強くある。市の方針もそうであってほしいと願う。</p>	<p>具体的な取組を定める基本計画の内容を検討する中で、参考にさせていただきます。</p>
30			<p>食の安全、環境への負荷について、不耕作地、休耕田などの活用として、有機・無農薬農業の促進を提案したい。体験型農業や貸し借り情報の発信など、農地を潰すのではなく活かし、有機・無農薬で取り組むことによって環境への負荷も減り、茅野市のイメージアップにも繋がると思う。</p>	<p>具体的な取組を定める基本計画の内容を検討する中で、参考にさせていただきます。</p>
31			<p>林業・森林づくりについて、茅野市の7割以上が森林という現状認識から、森林管理に力を入れる必要がある。水源かん養力は八ヶ岳から霧ヶ峰、西山方面まで、茅野市を囲んだ環境にある。茅野市の水道水源が、全て地下水であることの認識は重要である。戦後の植林の年齢が既に限界に達している状況にあり、森林管理を今後の課題とする時期である。戦後、手の入らなかった森林を、将来のためにも生き返らせる時期である。茅野市の将来設計は、どのようになっているのだろうか。 森林管理に従事する人を支援し、地元山林を管理することを行政が先頭に立ち、農地とともに、一次産業の衰退に歯止めをかけることが必要になってくる時期であると思う。</p>	<p>具体的な取組を定める基本計画の内容を検討する中で、参考にさせていただきます。</p>

No	ページ	該当する箇所等	いただいたご意見の概要	市の考え方等
32	29～33	基本計画 「3つのまちの姿に 関連した施策例」	子育てや教育に関しても、他の自治体では子育て世代の転入を増やすため、医療費や給食費の無料化などの政策を行っているが、茅野市は特にそういった施策もなく、特色のある私立の学校などもないために、教育の選択の幅が狭い。私立の学校法人の誘致や設立補助なども行ってほしい。特色のある学校ができれば、子育て世代の転入も見込めると思う。地方移住の流れに乗るためには、他の自治体と比べても選ばれるような施策が必要であると考えている。	具体的な取組を定める基本計画の内容を検討する中で、参考にさせていただきます。
33			教育について、従来の教育や校則を見直してほしい(通知表を廃止する、選択制授業、野外授業を増やすなど)。近年はフリースクール校などが増え、公立の学校も従来の教育から大きく変化している。子どもが選択できる学校、親が子どもに行ってもらいたいと思える学校が地域にあることで、住みたいまち、子育てしたいまちとして、茅野市も変化して行ってほしい。	具体的な取組を定める基本計画の内容を検討する中で、参考にさせていただきます。
34			教育計画や子どもへの福祉手当が薄いように感じる。私自身はまだ独身で子どももいないが、子どものためにお金を使うことに、表立って反対する人はいるのであろうか。小学校の統廃合は、この数年でかなり大きなテーマになると思うが、本当に慎重にたくさんの意見を取り入れて、多部署とも連携し、形を決めて行ってほしい。	具体的な取組を定める基本計画の内容を検討する中で、参考にさせていただきます。
35			「若者に選ばれるまち」とあるが、求人数も少なく、職種も限られていて、若者が働く場所が見つかりづらい状況にあると思う。例えば、茅野市で起業する40歳までの人に支援金支給、または起業を市がサポートする体制を作るなど、地域の人との橋渡しを市が率先して行う必要があるように感じる。	具体的な取組を定める基本計画の内容を検討する中で、参考にさせていただきます。
36			「若者に選ばれるまち」について、仕事があり子育てができる、充実した福祉などが求められる。工場などの誘致も道路整備、教育環境の整備が必要になる。工場誘致を加速させる必要があるが、住民との対話を十分持ち、皆が納得した開発を望む。工場誘致により、交通の環境が変わる。地域住民が安心できる道づくりも、並行して検討することを希望する。 また、移住してきた方も若い方も、希望する人が農作業できる環境づくりが必要である。その際、農地の貸し借りも、面積の拡大と地主さんと話し合いができるように、市の介入が肝要である。 また、生まれたところに戻りたいと思える環境と、行政の支援が必要である。教育費、医療費の補助を手厚くできる可能性を求めたい。	具体的な取組を定める基本計画の内容を検討する中で、参考にさせていただきます。

No	ページ	該当する箇所等	いただいたご意見の概要	市の考え方等
37	42～48	資料編 「土地利用構想」	<p>土地利用に関する大きな方向性は記載の通りであると思うが、少子化等による茅野市の人口減少と、核家族化等による空き家の増加に伴う既存集落の空洞化に対する基本方針な考え方について、土地利用構想の中に明記する必要があると考える。</p> <p>45ページに記載のとおり、市民が豊かに永続的に住み続けるために、記載の内容は重要な要素であるが、現状を踏まえたより現実的で避けては通れない課題を共有し、その対策の方向性を明記することが、今後の財政負担を踏まえて、今から取り組む最も重要な施策となると考える。</p> <p>特に47ページに示す「緑と人の農住共生ゾーン」については、自然的土地利用と都市的土地利用の調和を図る部分において、人口密度と財政負担、豊かな暮らしを担保するライフラインの維持・整備、更には、災害に備えたまちづくりの観点からも、既存集落を大切にしたい土地利用の推進に触れる必要があると考える。</p> <p>このことに関連し、日々住宅建設が行われている状況を鑑みれば、48ページのゾーニング図については、計画上は今ままで構わないが、緑と人の農住共生ゾーンの具体的な考え方やエリアを早期に策定し、本総合計画策定と同時に施行に移せるくらいのスピード感を持った対応が求められる。</p>	<p>土地利用構想の元となる都市計画マスタープランは、2018年度から概ね20年後のまちづくりを見越した計画であることから、その中で描かれた土地利用の基本的な方針等については、現時点では変わらないものと考えています。</p> <p>個別具体の課題への対応については、基本計画を策定する中で検討していきます。</p>
38			<p>42ページの「マスタープランに示します。」との記述であるが、マスタープランと整合性を取ることは必要であるが、平成30年に策定した計画が実情に合わない、またはその後の変化に適応していない点があるのであれば、「示す」ではない別の記載が良いのではないかと。公共交通の見直しや農業分野で策定中の地域計画、行財政改革を実施する中では、マスタープランや立地適正化計画も見直す余地があるわけなので、最新の第6次総合計画では、見直しを迫られている点を示しながらの記載が望ましいのではないかと考える。</p>	
39	全般		<p>具体的な施策を掲げたものではなく、抽象的な目標がうたわれている中で、「誰もが幸せを感じられるように」といった内容は好感が持てた。</p>	<p>誰もが、その人なりの「幸せを実現できるまち」を普遍的なテーマに据え、まちづくりを進めていきます。</p>
40			<p>「若者に選ばれるまち」、「幸せを実現できるまち」の実現に向けて、まず若者や子育て世代の言葉にしっかりと耳を傾けてほしい。</p>	<p>広聴の仕組みや方法などを工夫していきます。</p>
41			<p>移住してきたという方から、茅野市民になり、子育てしやすい施策が充実していると感じられないという意見を聞く。移住者も市民として、茅野市が暮らしやすく子育てしやすいと感じられること、子どもや若者が暮らしやすいと感じることが重要ではないか。移住者も含め、今住んでいる方々が声を出しやすくすること、特に、子どもや若者が声を出しやすく、活かしやすい状態にすることに、あまり触れられていないので、市民、特に、将来を担う子どもや若者の意見を活かすことのできる文言を入れてみてはどうか。</p> <p>本来の意味でのパートナーシップを、子どもや若者を巻き込み、実現させていくことを目指していくことが読み取れると、将来の希望につながると感じる。</p>	<p>具体的な広聴の仕組みや方法などについては、基本計画に定めていきます。</p>
42			<p>これからの茅野市の方向性を示す大切な基本構想であるが、背景や考えなどが市民の方々には理解が難しい。第6次総合計画の策定に際して、基本構想をできるだけシンプルに、わかりやすく説明していくことが重要であると考えます。</p>	<p>表現を工夫するなどして、市民にわかりやすく説明するよう心がけていきます。</p>

No	ページ	該当する箇所等	いただいたご意見の概要	市の考え方等
43	全般		パブリックコメントの募集なども、わかりやすく広く告知していただきたい。	今後は、告知する媒体を増やしたり、表現方法を工夫して告知していきます。